

平成27年度 第2回 大洲市総合教育会議 会議録

1 開催した日時及び場所

平成27年12月21日（月）午後3時57分から午後5時17分まで  
大洲市役所別館3階第1会議室

2 出席した構成員

大洲市長		清 水 裕
大洲市教育委員会 委員長		叶 本 正
大洲市教育委員会 委員長職務代理者		西 山 千 春
大洲市教育委員会 委員		山 内 光 郎
大洲市教育委員会 委員		東 山 宏
大洲市教育委員会 教育長		二 宮 隆 久

3 会議に出席した職員

（教育委員会事務局）

（市長部局）

教育部長	松 本 一 繁	市民福祉部長	岡 村 清 利
教育総務課長	藤 田 修	子育て支援課長	篠 原 雅 人
教育総務課学校教育指導監	松 井 康 之	（事務局）	
生涯学習課長	森 岡 照 久	総合政策部長	神 元 崇
文化スポーツ課長	森 野 啓 二	企画政策課長	栗 田 浩 治
学校給食センター所長	亀 井 要 和	企画政策課政策秘書室長	藤 原 貴
教育総務課長補佐	久 保 明 敬	企画政策課長補佐	井 上 朋 明
		企画政策課政策秘書室専門員	往 田 秀 樹

4 傍聴者の数

2人

5 協議又は調整に係る事項

- (1) 大洲市教育大綱について
- (2) 各種計画策定の取組状況について
  - ① 大洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略
  - ② 大洲市公共施設等総合管理計画
- (3) その他

6 議事

別紙のとおり

	1 開会
	2 市長あいさつ
清水市長	<p>3 議事</p> <p>(1) 大洲市教育大綱について</p> <p>それでは、私のほうで進行を務めさせていただきますので、ご協力をお願い申し上げます。まず、議事の「1 大洲市教育大綱について」を議題とさせていただきます。事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>〔会議資料に基づき説明 企画政策課長〕</p>
清水市長	<p>それでは、只今、教育大綱について説明がございました。ご意見、ご質問があれば、お願いします。</p> <p>〔意見なし〕</p>
清水市長	<p>それでは、特にないようでありますので、ここでお諮りいたします。教育大綱につきまして、原案のとおり策定することでご異議ありませんか。</p> <p>〔異議なしの声あり〕</p>
清水市長	<p>それでは、原案のとおり策定をさせていただきます。</p>
清水市長	<p>(2) 各種計画策定の取組状況について</p> <p>① 大洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略</p> <p>次に、「2 各種計画策定の取組状況について」を議題といたします。まず、大洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略について事務局から説明をお願いします。</p> <p>〔会議資料に基づき説明 企画政策課専門員〕</p>
清水市長	<p>ありがとうございました。それでは、どなたかご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。</p>
西山委員	<p>子どもを増やすということに関してですが、未婚者が増えており、男性が家庭を持つためには経済的事情にたどり着いてしまいます。</p>
清水市長	<p>保育所や幼稚園など子育てにできるだけお金がかからないような仕組みを作っていくことが、子どもを安心して産み育てる環境につながると思います。</p>

二宮教育長	<p>学校の教職員につきましても、他の業界の方と出会う場が少ないと思います。婚活支援を行っていく中で、教職員が参加しやすい出会いの場も作っていただきたいと思います。</p>
清水市長	<p>今までは、青年団活動など地域で若い方々の出会う場がありましたが、最近は、活動も少なくなり、職場内で知り合うという形が多くなっています。その場合、年上の既婚者など頼りがいのある人をいつも見ていると、結婚の意思に至ることが難しい事情もあると思います。同世代の若い人、そして様々な職種・環境の方々の出会いの場が作れればと考えています。</p>
東山委員	<p>教員は、40歳以上が8割、20・30歳代が2割程度しかいない状況となっており、喜多小学校・大洲北中学校でも初任者が毎年赴任するような状況ではありません。</p>
清水市長	<p>男女が混合して、色々な世代の方々が出会える機会を作っていく必要があると考えています。</p>
山内委員	<p>子どもをつくらない方もいらっしゃると思いますが、出生率の低下対策としては、小さい頃から教育の充実など幼保一元化等の見える環境づくりが重要ではないかと考えています。</p>
清水市長	<p>若い方だけの家庭では、子どもをどうして良いか分からない、どれだけ苦労するか分からないという場合もあると思うのですが、地域の先輩方が、まずは教える、そしてサポートするという体制ができれば、子どもを産むことへの不安を解消する環境づくりにつながると考えています。</p>
叶本教育長	<p>昔は、地元の者同士が結婚することが多かったと思いますが、ぜひ市内で働いている人は、市内で結婚してもらいたいと思います。</p>
清水市長	<p>子どもが生産年齢になるまでには20年ぐらかかるわけですので、それまで地道な努力を続け、はじめて結果が出るのではないかと考えます。今回の人口ビジョンにもありましたように、普通に推移すると3万人を下回りますので、3万人以上を目指して努力していきたいと考えています。</p>

<p>二宮教育長</p> <p>清水市長</p>	<p>子育て、教育をするならば、大洲市とさせていただけるようなまちづくりを行っていただきたいと考えています。京都あたりでは、教育の見直しにより、その校区に他の地域から移り住むという取組みが進められているようですので、南予では特に大洲が良いと言えるように我々もがんばってまいりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>子どもの声がたくさん聞けるよう取組みを進めてまいりたいと考えています。</p>
<p>清水市長</p> <p>清水市長</p> <p>西山委員</p> <p>清水市長</p> <p>叶本委員長</p> <p>清水市長</p>	<p>② 大洲市公共施設等総合管理計画</p> <p>次に、「② 大洲市公共施設等総合管理計画について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。</p> <p>〔会議資料に基づき説明 企画政策課長補佐〕</p> <p>ありがとうございました。それでは、どなたかご質問、ご意見等がございましたらお願ひいたします。</p> <p>見極めというか、判断していくことが非常に難しいと思うのですが、今後、公共施設をどの程度活用していくこととなるのですか。</p> <p>人口減少など地域差もあると思うのですが、公共施設だけではなく、地域の商店などの販売や情報の機能を集約しなければ、成り立っていかない気がしています。商店等の競争がない地域では、公共施設と一緒にしながら、維持管理費を削減するなど生き残っていく新しい方法を考えていく必要があると思ひます。</p> <p>全国でも、特区の取組みが進められており、今までバスに人しか乗れなかったが、内子町ではバスに荷物を乗せることができるようになったりしていますので、様々な工夫をしながら、取捨選択や効率化などをどのように見極めて進めていくのかを考えていく必要があります。市の財政も、少しずつ良くなっていますが、見通しがつかない中、16億円ぐらいの合併の一本算定につきましては、3分の1程度の5、6億円になると言われています。地域の合意を得ながら、できるだけ継続可能な仕組みを作り、お互いに我慢をしながらサービスを提供し、受けていくことが重要になると考えています。</p> <p>新しい施設については、複合施設という考え方になりますか。</p> <p>人口減少社会の中では、複合化は避けて通れないと考えています。</p>

山内委員	<p>学校統廃合後の廃校施設の利活用につきましては、耐震性がない施設もあると思いますが、耐震対策を講じて使用するのか、そのまま使うのか伺います。</p>
藤田課長	<p>閉校施設活用の基本方針としては、現在のまま使っていただくこととしており、例えば、企業等が耐震対策をして使用することについては可能ですが、大洲市が閉校施設を耐震改修して貸すということにはしていません。</p>
清水市長	<p>使用目的に応じたお金のかけ方が重要であり、これまでは学校だったが、こういう施設が必要であるという場合には、新たに施設を作る必要がありますが、そこに校舎があるからそれを使いたいということであれば、耐震対策は難しいと考えています。</p> <p>新耐震という形で建築基準法が改正され、その中で新しいもの、古いものは一応仕分けをしていますが、どこまでもつのか分からないところもあります。危険な建物については、過疎債等を活用しながら、順次、撤去していく必要があると考えています。</p>
二宮教育長	<p>廃校施設の中で、使用できないようなものについては、過疎債の財源の枠の中で計画的に撤去していくことで、市長から指示をいただいています。</p>
清水市長	<p>危険があり、立ち入りを制限するものについては、管理上問題があるため、その時点で壊していきたいと考えています。公園遊具でもロープを張って立ち入りを制限するものがたくさんあったのですが、その時点で、撤去又は修繕するということが必要であると考えています。</p>
叶本委員長	<p>今、問題となっている空家の撤去については、どうでしょうか。</p>
清水市長	<p>空家は個人の財産になりますが、例えば、危険空家が道路に倒壊すると危険であるという公共的理由があれば分かりやすいのですが、ただ古いからという理由だけでは対応が難しいと考えています。</p> <p>また、「おはなはん通り」などの町並みでは、危険空家の仕組みとは違う形でまちづくりの中で整理が必要であると考え、現在、空家の調査を行っていますが、住めそうな空家では、違う地域から活用してもらえそうな仕組みを作っていく必要があると考えています。</p>

清水市長	<p>(3) その他</p> <p>本日予定している議題は、以上でございますが、その他何かございませんか。</p>
二宮教育長	<p>小・中学校の9年間の教育をどのように今後進めていくのかという点についてご報告します。文部科学省においても、小中一貫教育について議論されていますが、小学校から中学校に上がる時に環境が変わるため、大洲市では少ないのですが、学校に行きづらくなる子どもがいます。9年間という義務教育の中で計画的に進めていくという観点で、小中一貫教育、又は連携という形で先行した事例等の研究を進めているところです。28年度におきまして、そのあたりの研究や勉強を進め、今後どのように取り組んでいくのかを検討していきたいと考えています。市内で一つのグラウンドをはさんで小中学校が一緒にある学校もありますので、そういう小中学校で検証を進めた上で、取組みを進めていきたいと考えています。</p>
清水市長	<p>小中一貫は、一つの手段であり、環境が変わるということもあると思うのですが、子どもによって教育を受けて進み方も異なっていると思うので、学年レベルで区分せず、それぞれに応じた教育を行っていくことも必要ではないかと思っています。冒頭で申し上げた様々な個性や多様性のある教育の中において、そのようなことができるような体制等を考えた時に、小中一貫が良いということであれば、そのような取組みを進めるべきであると考えています。現在の小学校6年、中学校3年という教育を進めていく中での課題が解消できるのか、そういう点を検証しながら進めていくべきではないかと考えています。</p>
二宮教育長	<p>そういうことをご指導をいただきながら、進めてまいりたいと思います。また、外国語教育が小学校でも増えてきますので、中学校の英語の先生が小学校に入り、小学校の先生も勉強して教えることができます。</p>
清水市長	<p>年齢が一緒であるということは関係なく、それぞれの段階で得意なことをどんどん伸ばし、不得意なことはゆっくり勉強できるようにするなどの取組みが必要ではないかと考えています。</p>
西山委員	<p>最近、電子機器の発達により活字に触れる機会が減っているような気がしており、市立図書館においても、キャッチフレーズを家読（うちどく）として、子どもとともに家族での読書を推進していますが、平成25年からの大洲市子ども読書活動推進計画に基づいて学校における子</p>

<p>清水市長</p>	<p>どもの読書活動を推進するためにも、身近な学校図書館を充実し、魅力あるものにしていただきたいと思います。読書好きな子どもを多く増やし、確かな学力や豊かな心を育て、それが子ども一人一人の個性を伸ばすことにもつながっていくと考えています。</p> <p>市立図書館と連携しながら読みやすい本を回していただくことも必要であると考えていますが、本を読むことにより人間関係などを頭の中で想像しなければならないので、子どもにとってはプラスになると思います。学校でも読めるし、図書館でも読めるようにすることや図書館で処分する本も読めるようなものがあると思うのですが、そういう本を読んでもらえるような取組みも必要ではないかと考えています。できるだけ連携して1冊の本がたくさんの人に読まれることが重要であると思います。</p>
<p>山内委員</p>	<p>蔵書の充実が、教育大綱の「豊かな学びを支える教育環境づくり」を実現していくために、すぐに学校の図書館で本が読めるという環境づくりが非常に重要だと思っています。</p>
<p>清水市長</p>	<p>昔は辞書を引いていたが、検索で終わってしまう場合もあり、電子機器から1週間離れるような取組みも必要だと思っていますので、学校だけではなく、家庭でも考えていく必要があると考えています。</p>
<p>二宮教育長</p>	<p>学校における調べ学習は、学校図書館を活用して実施していますが、他の学校並みに標準冊数を確保するように計画的に整備を進めたいと考えています。</p>
<p>東山委員</p>	<p>インクルーシブ教育、障がいがある子もない子も可能な限り同じ場で教育を進めていくためには、特別支援教育が不可欠であると言われていますが、大洲市の現状としては、市の担当者に専門性がなく、指導や助言ができる人がおらず、学校の教員が主導しているのが現状です。現在、松井指導監と井上課長補佐がおりますが、もう1人指導主事を配置していただき、市教育委員会がリーダーシップをとって進めていけば良い教育ができると思います。教育大綱の中におきましても、基本目標1の基本方針(3)に「障がいがある子どもたちの自立と社会参加を促進するため、早期からの教育相談等を通して適切な教育支援を行い、一人一人の発達段階に応じた指導の充実を図ります」とあり、基本目標3の基本方針(2)に「教職員が子ども一人一人と向き合う時間を確保することができる環境を整えます」とありますので、予算もあると思う</p>

<p>清水市長</p> <p>東山委員</p> <p>清水市長</p>	<p>のですが、ぜひ、配置していただき、八幡浜市や西予市のように推進に力を入れていただければと思います。</p> <p>方針については、問題があるわけではないのですが、やり方をどのようにするのかを検討する必要があると思っています。先日、障がい者のスポーツ大会に参加し、ある方が「自分達は障がい者と言われるが、障がいも個性である」と言われ、そういう方が元気に活動されていたのですが、それが理想だと思っています。ただそういう理想論だけでは課題は解決しませんので、どんな形で何が問題で、解決する対策として何が必要であるかなどを議論して考えていく必要があると思っています。</p> <p>障害者差別解消法においても、市の責任として専門的知識による支援など5項目が盛り込まれていますので、ぜひお願いしたいと考えています。</p> <p>法律では「障害者」と漢字で書かれていますが、大洲市では「障がい者」と表示をすることとしており、色々なハンディキャップを持ちながら個性があり、皆さんと一緒に生きていくわけなので、法律のように「障害者」という言葉で一括りにするのは、個人的には、別から見たような視線を感じてしまいます。皆さんが寄り添ってどういう所に特徴があって、得意な所、不得意な所があると思うのですが、皆さんが良い所を認め合いながらお互いに社会の中で共生していくことが理想ではないかと思っています。子どもたちが社会に入っていける仕組みを作り、伸ばしていけるように考えていきたいと考えています。</p>
	<p>4 教育委員長あいさつ</p>
	<p>5 閉会</p>